

～ 小国川だより ～

山形県 最上総合支庁

第5号

建設部 河川砂防課

平成20年10月23日

清流小国川



最上町大堀地内



オオルリ

スズメ目ヒタキ科の鳥です。日本へは夏鳥として飛来・繁殖し、冬は東南アジアで越冬します。高い木の上でほがらかにさえずります。



スナヤツメ

ヤツメウナギ科。全長は大きいもので約20cm。目とその横に目のように見える7個のえら穴があることからヤツメウナギと呼ばれるようになりました。

はくさん

白山橋から下流を眺めた景色

最上小国川流域では貴重な生物が確認されています。専門家のアドバイスを受け、環境に配慮しながら工事を進めていきます。

平成10年9月洪水による被害状況

平成10年9月16日、台風5号による大雨で、最上小国川が氾濫し、最上町・舟形町において大きな被害が発生しました。最上町赤倉温泉では、床上浸水11戸、床下浸水7戸の被害が発生しました。



赤倉地区 虹の橋から下流側を望む



赤倉温泉地内



赤倉地区 虹の橋から一本橋上流側を望む

【用語解説コーナー】

床止め(とこどめ)

河床の深掘れを防いで河川の河床勾配を安定させ、護岸などの構造物を保護するために河川を横断して設けられる施設です。床固め(とこがため)と呼ぶこともあります。床止めに落差があるものを「落差工(らくさこう)」と呼び、落差がないものを「帯工(おびこう)」と呼びます。

根固(ねがため)

護岸が洗掘されないよう護岸の根元を押さえる石やコンクリートブロックなどの施設です。

河川工事による温泉への影響について

前号では、河川改修工事をする時の問題点について確認しましたが、過去に実施した河川工事で温泉に影響を及ぼしたことがありましたので、その内容について報告します。

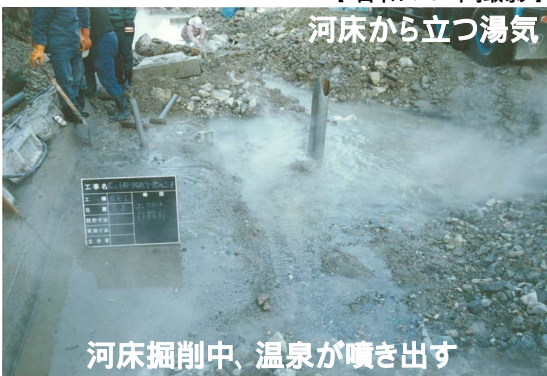
赤倉地区の小国川護岸は、主に玉石を積み上げて造った護岸でした。今から20年前、その石積みの一部が欠け、亀裂から河川水が建物に漏れるなど、護岸の決壊が心配されるようになり、地元の方々から護岸の整備を要望されました。

現地を確認したところ、早急に補修が必要なが分かり、昭和63年11月から河川工事を行うことになりました。

11月17日に瀬替え（水の切り回し）を行い、18日の朝から河川内を掘り始めました。下流から順調に掘っていきましたが、昼前に、急に河床からお湯が噴き出しました。午後2時半頃、二つの旅館の岩風呂のお湯の量が減り、湯面が下がったと連絡を受けました。

工事を中止して状況を確認し、夕方から夜にかけてお湯が噴き出ている掘削箇所を、コンクリートで埋戻しを行いました。埋戻し作業が終わるとまもなく、1つの岩風呂の湯面が回復してきました。19日の午前には、もう1つの岩風呂の湯面も回復しました。

【昭和63年撮影】



河床掘削中、温泉が噴き出す

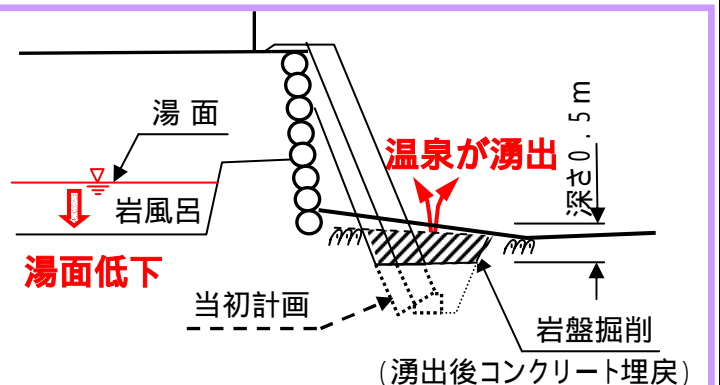
赤倉地内の河川は、河床のところどころから温泉が湧き出ています。源泉の湧き出るメカニズムの解明は、地形・地質的に非常に難しく、上記の工事の経験から、河床を掘る場合、温泉に影響が出ることは避けられないのではないかと考えています。

また、それが一時的であったとしても、営業に支障が出るようなことは、すべきではないと考えています。

しかし19日に、工事箇所の対岸にある別の源泉の温度が下がってきていることが分かりました。

その源泉は、日を追うごとに湯温が下がり、52度あった湯温が、最終的には35度まで下がりました。そのため、ボイラーを設置したり、近隣の源泉からお湯を融通してもらったり、さまざまな策を検討しましたが、以前と同じような源泉を確保することはできませんでした。

この旅館は、源泉の湯温が低いいため、営業が困難となり、やめることになりました。



赤倉地内温泉調査の状況について

10月6日に河床に露出している岩盤の状況を調査しました。8月に行った物理探査の結果、川の両岸は浅いところに岩盤がありますが、川の中央付近は岩盤が深く、数メートルも土砂がたまっているところもあると推定されました。

10月6日の調査では、地質や温泉の専門家を招いて河床の岩盤の状況を直接見ていただきました。河床表面の土をはくと、岩盤の割れ目数カ所から直接温泉が湧き出ました。湯温は、45~59度でした。

この調査と、さまざまな調査結果を総合的に検討した上で、温泉に影響を与えずに河川改修が可能なのか検討します。この内容については、報告会を開催して皆様にお知らせする予定です。



【H20年10月6日撮影】

発行：山形県最上総合支庁建設部 河川砂防課 最上小国川ダム建設室
〒996-0002 山形県新庄市金沢大路上2034

お問合せ先 電話 0233-29-1407

Email - 【前画面を参考にして下さい。】

バックナンバー

創刊号…報告会のお知らせ
第2号…H19調査結果と
H20調査内容
第3号…治水対策の手法
第4号…河川改修